# 節水の意識と行動

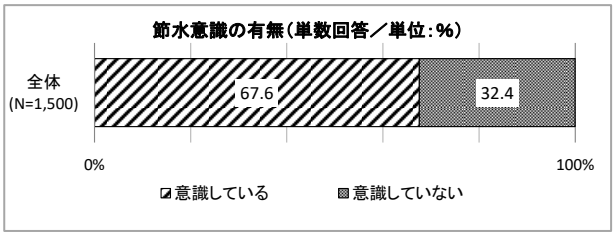
ミツカン水の文化センターでは、今回、生活者の節水の意識・実態をより詳細に探るべく、これまで経年で追ってきた「家庭における水の使い方」※に代わり、新たな設問で実施。当センターにおける節水評価の新機軸として、来年以降も継続的に調査してまいります。

※「節水・再利用を気にせずに水を使っている」「節水・再利用を気にしながらも、特に何もせず水を使っている」「多少節水・再利用しながら水を使っている」「かなり節水・再利用をしている」の四択による調査。1995年～2018年に実施。

## Q.節水を意識しているか？　（2択）

**◇節水を意識している人は67.6%。**

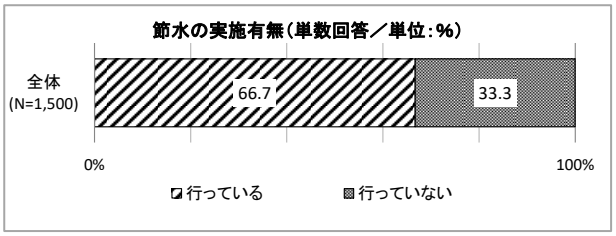
まず、生活者における節水への意識の明確化を目的に、その有無を調査。結果は、「意識している」が67.6%となり、「意識していない」（32.4%）を大きく上回りました。



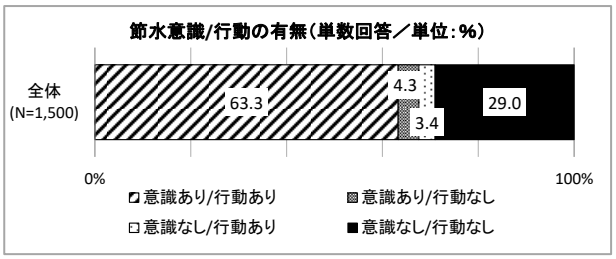

## Q.節水を実施しているか？　（2択）

**◇節水を実施している人が66.7%。**

次に、節水の実施有無について聞いたところ、こちらも「行っている」が66.7%で、「行っていない」は全体の3割程度でした。




また、上記の意識と行動をクロスした結果は、「節水の意識があり、行動もしている人」（意識あり/行動あり）が63.3%で最も多く、「節水の意識はあるが、行動はしていない人」（意識あり/行動なし）が4.3%、「節水の意識はないが、行動はしている人」（意識なし/行動あり）が3.4%、「節水の意識がなく、行動もしていない人」（意識なし/行動なし）は29.0%となりました。




## Q.日常生活で実践していることは？　（14択＋その他＋実践していることはない）

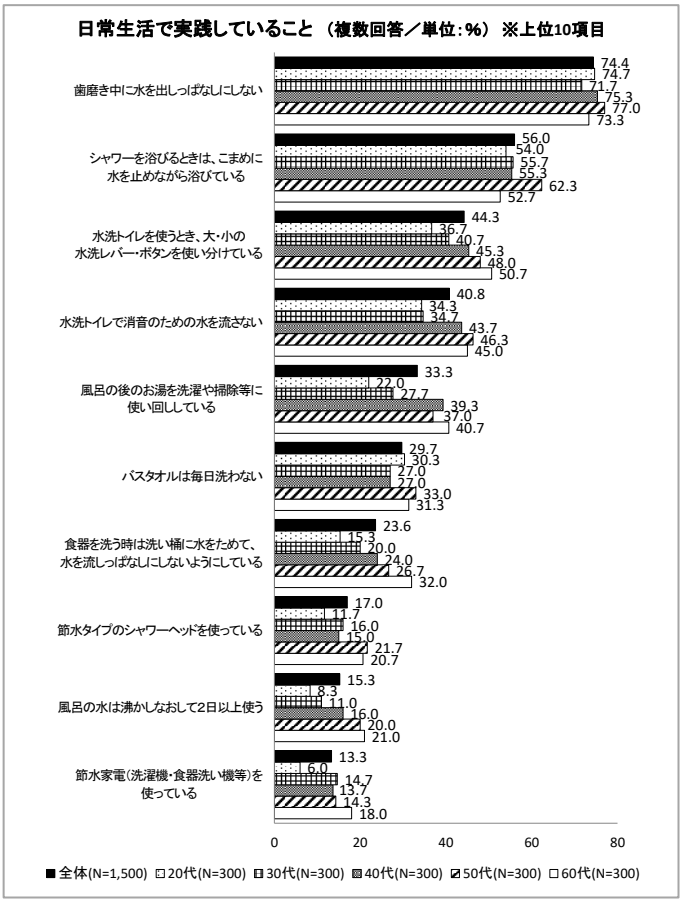
**◇1位は「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」。トイレの行動に年代差？**

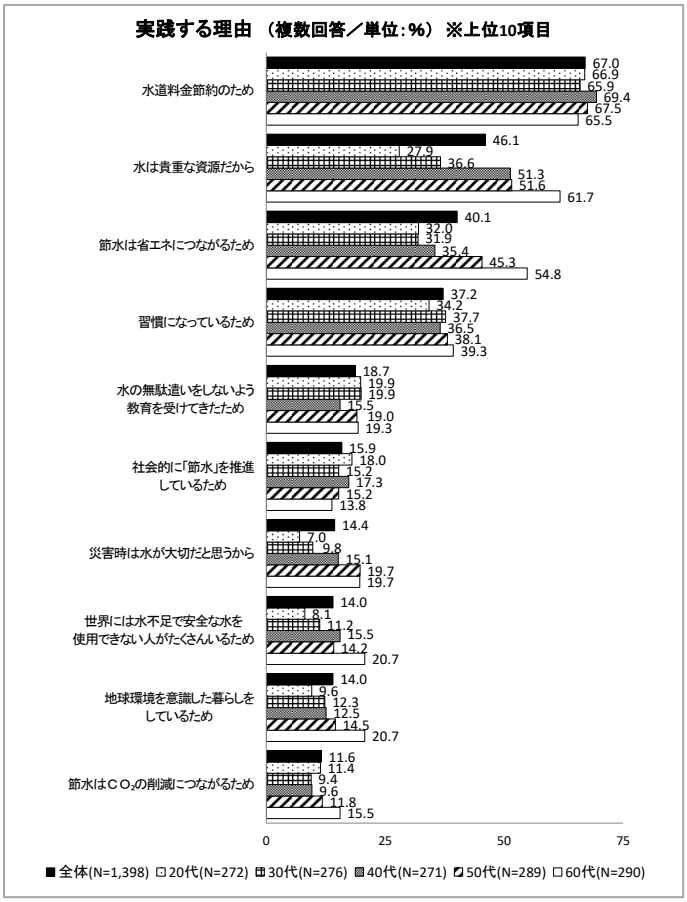
節水や再利用の方法に関する項目を選択肢にあげ、日常生活で実践していることとして聞いたところ、全体で最も回答が多かったのは「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」（74.4%）で、2位「シャワーを浴びるときにこまめに水を止める」（56.0%）、3位「水洗トイレの大小レバー・ボタンを使い分ける」（44.3%）、4位「水洗トイレで消音のための水を流さない」（40.8%）、5位「風呂の湯を洗濯や掃除に使い回す」（33.3）と続きました。
上位の項目を年代別で比較すると、「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」や「シャワーを浴びるときにこまめに水を止める」は、世代間のバラつきがあまりなく、各年代とも全体平均とほぼ同様の数値でしたが、「水洗トイレの大小レバー・ボタンを使い分ける」は60代が50.7%なのに対し、20代は36.7%、「水洗トイレで消音のための水を流さない」では、50代・60代の45%超に対し、20代・30代は35%に満たないなど、主にトイレでの行動において違いがみられました。

## Q.実践する理由は？　（13択＋その他＋理由はない）

**◇“経済的理由”が最多。“環境的理由”は高齢層、“社会的理由”は若年層に多い傾向。**

前項の理由をたずねたところ、全体の1位は「水道料金節約のため」が67.0%と、多くの人が“経済的理由”をあげました。以下、2位「水は貴重な資源だから」（46.1%）、3位「節水は省エネにつながるため」（40.1%）と“環境的理由”が続き、4位「習慣になっているため」（37.2%）、5位「無駄遣いしないよう教育を受けてきたため」（18.7%）、6位「社会的に節水を推進しているため」（15.9%）となりました。
年代別では、全体1位の「水道料金節約のため」に世代間の差はありませんでしたが、「水は貴重な資源だから」「節水は省エネにつながるため」といった“環境的理由”では20代・30代に比べ、60代をはじめ高い年齢層で多くの回答がありました。一方、“社会的理由”の「社会的に節水を推進しているため」は、20代が18.0%と、他の世代に比べ多くの回答がありました。




## 沖大幹先生による解説 ～Oki's View～ ③

**【節水行動】**

私たちは、家庭での普段の暮らしが普通だと思っているが、こうしてアンケートを取ってみると、家庭によって実は千差万別なのではないか、ということに気づかされる。歯磨き中に水を出さないと答えた人が74.4%ということは、世間の1/4の人は歯磨き中も水を出しっぱなしということだろうか。何秒間磨くのだろう。10秒くらいで終えるから気にならないのだろうか。

シャワーを止めない人がいるのは想像できる。旅行中の宿泊先だともっと止めない人が多いのではないだろうか。しかし、トイレの大小レバーを使い分けている人が半分以下というのはある意味衝撃的である。技術者が工夫をして小ならさらに2～3割節水できるようにしているのに、なぜ利用しないのだろうか。若い人の方が使っていないので、生まれた頃に大小の区別がなくて育った世代は区別しない、というわけではない。急遽周囲に聞いてみたところ、「昔に比べるとそもそも節水トイレになっているので大でもそんなに水は流れないし、やっぱり多く流した方がきれいになりそうな気がするから」とのことであった。

バスタオルを毎日洗わない人が3割。最近では、ホテルでも節水や環境保全、コスト削減のために毎日は洗わない選択肢を顧客に提供しているのに、残りの7割の人々は毎日洗っているということだろうか。

さらに、節水を実践する理由として、46.1%が貴重な資源だから、と答えている。シニア層は60%越え、若者は30%未満であり、Q16【水とのふれあい】でも述べた通り、若者を中心とする半分以上の生活者はいまや水を貴重な資源とは思っていないのだと推察される。気にしなくてよくなったのはある意味では素晴らしいことである。

また、教育を受けてきたため(18.7%)よりも習慣になっているため(37.2%)の方が倍近く多い。教わるだけではなかなか行動には結びつかず、家庭での習慣にするのが大事であることが窺われる。

# 水道水に関する意識

## Q.水道水を10点満点で評価すると？ （0～10の整数を自由回答）

**◇高得点回答者減少で、平均が6点台に低下。**

昨年の調査では、平均点が7点台を回復した水道水の10点満点評価ですが、今年は、全体の平均が昨年から0.38ポイント減の6.67点、東京圏が0.41ポイント減の6.60点、中京圏が0.31ポイント減の6.78点、大阪圏が0.41ポイント減の6.64点と、いずれも6点台に逆戻りする結果となりました。

点数別回答率をみると、10点満点をつけた回答者の割合が昨年から4.6ポイント減の8.0%、9点の回答者が5.7ポイント減の5.5%と高得点層が減少した一方で、5点～7点の回答者層が増加しており、これが平均点を下げた要因になっていると考えられます。